



# 自然観察

No. 112  
2014. 11 月

## 目 次

- ・地方研修会報告・北大苫小牧研究林 . . . . . 2
- ・誰にでもできる観察会(4) . . . . . 4
- ・会計からのお願い . . . . . 6
- ・救急救命講習会 2015 . . . . . 7
- ・カメラルポ ほほえましい一瞬 . . . . . 8
- ・自然観察協議会指導員フォローアップ研修会開催のご案内 . . . . . 10
- ・新連載 面白く楽しい自然ガイド . . . . . 11
- ・フィールドニュース . . . . . 12
- ・ウォッチングレポート . . . . . 13
- ・参加者の声 . . . . . 14
- ・ウォッチングプラン . . . . . 15
- ・事務局だより・連絡先 . . . . . 16



ナナカマドの実に飛来するヒヨドリ

江別市 11月

## 地方研修会報告・北大苫小牧研究林 ～研修会で思ったこと～

谷口 勇五郎 (苫小牧市)

北大苫小牧研究林での研修会は、10月5日晴れ、10数名の出席でした。自然観察会(以下観察会)で取り扱うものは何でも(木・草・鳥・虫・その他)よいということで始めました。終わりまで皆さんの研究熱心な態度に敬服しております。特別に講師は呼んでいないので、誰もが得意なところは講師役、疑問なところは生徒役として、遠慮なく声を出し合うことにしました。自分の知らないことや疑問を明らかにすることは、勇気が必要です。それが気軽にできるようになれば、学びの量や早さは、格段に向上すると思います。研修会で思ったことを幾つか書かせてもらいます。



円陣を組んで指導員のガイダンスを聞く参加者たち

研修会で生物間のつながりは、興味深い話題になると思います。①エゾリスとチョウセンゴヨウ:研究林にはチョウセンゴヨウ(葉は5本1束、本州中部山岳・朝鮮・中国に自生)が幾本も植わっています。球果は握りこぶし大で、種子は小指の爪大です。9月末頃、エゾリスが球果を落とし、種鱗(種子を覆っているもの)をはぎとり、冬用に種子を地面下に貯食します。その殻があちこちに転がっていました。食べ忘れたものが芽生えることとなります。昔は種子を食

べる害獣でしたが、今ではこのマツはエゾリス(獣では)との関わりで繁殖していることがわかりました。各地のコースでは、ドングリ・オニグルミの貯食を取り上げることができます。②つる植物と樹木:径30cmのヤチダモに、径10cmのサルナシ、径6cmのツルウメモドキ、径3cmのツルアジサイが絡まっている場面がありました。ツルが樹冠まで届き、ヤチダモの上部が折れています。ツルアジサイの方は、あまり悪さをしないとか、他の2種は林業上では害ですが、植物の生存戦略の違いを理解できます。次に取り扱う生物について、述べたいと思います。

自然ガイドの研修内容とガイド内容は、必ずしも一致しません。研修内容については、各自の興味の向くままに精力的に進めることです。例えば、地衣類について学会などに入りどんどん深め、多くの種類の性質や生態を理解することはよいことと思います。

地衣類は極めて難しい分野ですが、当会に詳しい方がいてもよいと思います。

観察会では参加者のニーズに応え、楽しく、ためになることが重要だと思います。多くの人々のニーズは多様ですので、つい何でも扱うようになってしまいます。



指導員の説明を熱心に聞き入る参加者たち

しかし、その時点での自然ガイドの能力を考えると、妥協が必要になります。

普通の観察会では、木・草・鳥の3分野を取り扱えば充分かと思えます。自分コース内にある目立つものの3分野を扱える必要があります。すなわち大きいもの(樹木や野鳥のすべて)、花や実のあるもの、形や生活の仕方が面白いものなどとなります。草本などにはイネ科・シダ植物・カヤツリグサ科・コケ植物・地衣類・キノコなどがあります。

これらは似ており識別し難い部分があります。重要なものや判り易いものとして、イネ科ではオオアワガエリ・スズメノテッポウ・エノコログサ類・ヒメシバ類・ススキ・エゾフユノハナワラビ・ゼンマイ・ヤマドリゼンマイ・クジャクシダ・ワラビ・ヨシ・ツルヨシ・ナガハグサ・カモガヤ・ハルガヤ・ササ類など。シダ植物では、マンネンスギ・ヒカゲノカズラ・トクサ・スギナ・コウヤワラビ・クサソテツ・イヌガンソク・ジュウモンジシダ・ヒメシダ・オシダなどは早めに自分のものにする必要



があると思います。カヤツリグサ科～キノコまでは、個々の種名はともかく当面、それぞれの持つ共通の性質や生活の仕方を押さえておけばよいかと思えます。

地衣類に詳しいからといって、観察会であれこれの種名を出しながら、心おもむくままに延々と解説すれば、参加者の多くはやがて興味を示さなくなると思えます。

それぞれ期待を持って参加していると思います。たいがい簡素なガイドが良いかと思えます。

## 秋の北大苫小牧研究林研修会に参加して

恵庭市 久瀧 雅恵

この研究会を初めて訪れたのは2月の観察会。多くの鳥も見られ、いたる所にエゾシカの糞がたくさん落ちていました。よく見る丸いポロポロしたもの。でも今回のそれはやや固い泥状で、丸く潰れたものがひと塊まりになったものもあります。今はまだ柔らかい葉が食べられる時期だから。それも朝には、糞虫と呼ばれる虫たちによってなくなるそう。春は気温が低く虫の活動も少ないので、人目につくのだと。チョット確かめてみたくなりました。

ノブドウの実は、虫コブとと思っていましたが、色の綺麗な実こそ虫が入っている。思惑外れで白い実ばかりの我が家のものは、特徴のある黒い種が3粒ほど入っており、青紫の実には肥大した果肉にケン粒の黒い種の名残りばかりで納得。

帰る頃、示されたメノコツチハンミョウ。メノコと付くだけあって目を引く蛍光色ブルーの虫。触れると気触れを起こすカリタジンを含む黄色い汁を出すので気を付けるように。ケースのものは、体の大きな雌で、体内には8000~10000個もの卵を抱えているだろうと聞いてまたビックリ。どこにどう産みつけるのか。

秋晴れの研修会、こんな観察会を開けるようになれるかと自問しつつ帰途につきました。

# 誰にでもできる観察会(4)

～「不思議」と「すごい」を感じることから始まる自然の観察～

北海道自然観察協議会会長 横山 武彦

## 生きものの営みのたくみさ — 命のつながりの不思議

観察会では、季節、場所などの状況に合わせて観察する対象をしぼることが多いのですが、植物や動物の様々な姿や営みを一つの視点からストーリーを設定して観察してみると、新しい発見を共有できるのではないのでしょうか。

ここでは、「命のつながり」のしくみから生き物の営みの作戦を、いくつか挙げてみたいと思います。

### (1) 開花結実までの作戦

#### ① フクジュソウとザゼンソウは訪花昆虫を独り占め？

春まだ寒い時に開花するため、フクジュソウは花びらがパラボラアンテナのようについていて、日差しを受けるため朝から夕方まで花の向きを変えていきます。日差しを受けると外気より3~4度高くなり、花粉の報酬を求めている昆虫は花蜜を出さないフクジュソウでも、他より高い温度の花に昆虫が誘引されます。ハナアブとハエなどの仲間、特にハモグリバエが多くこの花を訪れます。ハモグリバエはその名のとおりフクジュソウの葉にも卵を生み付け、幼虫は葉の内部を掘り進み食べて成長します。

ザゼンソウは肉穂花序（花が沢山集まっているところ）では発熱し異臭も発するので、昆虫を誘引する役割を果たしています。気温がマイナス10℃の時でも肉穂花序では20℃にもなるそうで、雪があってもザゼンソウの周りは雪が解けているというのは理解できます。発熱は雌蕊が肉穂花序の表面に現れているほぼ1週間で、雄蕊と雌蕊が共存する頃から減少し、肉穂花序が花粉で覆われる頃にはほとんど出なくなるということです。花粉が発芽して花粉管を伸ばす時の最適温度は23℃とのことですから、受粉した後、不稔としないためにはせめて表面温度が20℃あることが必要なのでしょう。さらに、この時期はザゼンソウの体全体から悪臭を発生し、ハエなどの誘引に一役かっています。この悪臭からザゼンソウはSkunk-Cabbage（スカンクキャベツ）と言われていいます。

フクジュソウやザゼンソウは、いずれも、多くの植物がまだ花を咲かせないうちに訪花昆虫を独り占めする作戦です。

#### ② フタリシズカの種子のできかたは2種類

花のつぼみが開いて花粉が雌蕊に受粉（自家受粉又は他家受粉）することにより種子ができる花は開放花、つぼみができても花は開かずに自家受粉で種子ができる



フクジュソウ



ザゼンソウ



フタリシズカ（開放花）



### フタリシズカ(閉鎖花)

閉鎖花をつくるものには、ミゾソバ、ヤブマメ、スマレ、タツナミソウ、キツリフネ、ミヤマカタバミなどがあります。

花は閉鎖花と言われます。自家受粉のできる子どもには近交弱勢<sup>(\*)</sup>が現れ、開放花から他家受粉のできる子どもより生存率が高いとは言えないのに閉鎖花を作るのは開放花が結実できないときの補償として作られるという考えがあります。開放花は閉鎖花よりも多く作られ、開放花が結実してから閉鎖花ができます。多年生のフタリシズカでは、前年までに蓄えてあった栄養で茎や葉をつくり開放花を咲かせます。その年に光合成で生産した栄養は、次年度のための蓄えと閉鎖花を作ることに配分されると言います。

\*近交弱勢：近親交配が続くことにより、大きさ・耐性・多産性など、一般的に生活力が低下する現象。雑種強勢と対照的な現象で、劣性有害遺伝子が一緒になることが増え、雑種強勢に関わる遺伝子が失われることなどによる。(岩波生物学事典)

### ③セイヨウタンポポの勢力拡大の作戦の一つは無性的に種子ができること？

セイヨウタンポポが在来のタンポポより勢力を拡大する作戦の一つに、配偶子が融合(受精)しなくても無性的に種子ができ繁殖するしくみ(無融合種子形成、無融合生殖)があることで、このことは柱頭を切除しても発芽能力のある種子ができることで確かめられました。これは三倍体(3n)以上のタンポポで行われます。二倍体(2n)のタンポポは有性生殖で受精により種子を作ります。日本や北アメリカに帰化したセイヨウタンポポはすべて三倍体とのことです。

でも、セイヨウタンポポはエゾタンポポの花粉を受粉して雑種をつくることがあります。三倍体のセイヨウタンポポの花粉がエゾタンポポや既にある雑種タンポポに受粉され、さらにいろいろな雑種ができていることが染色体やDNAの解析から知られています。セイヨウタンポポにできる花粉は大きさもいろいろで、持つ染色体も多様であるため、受粉して種子ができてても遺伝的には多様な雑種ができます。

たしかに、一見してセイヨウタンポポでも頭花の総苞片の反り返りが中途半端であるなど、雑種と考えられるものがエゾタンポポの生育地の周辺ではみられます。

繁殖力が強く、明治以降に移入されたセイヨウタンポポが北海道中に広まった訳には、エゾタンポポとは次の違う特徴があることが考えられます。

- ・エゾタンポポは夏に葉を枯らすが、セイヨウタンポポは夏も葉を付け栄養を蓄積できる。
- ・エゾタンポポの花期は春が主であるが、セイヨウタンポポは夏から秋にかけても花を咲かせ種子を作る。
- ・一株当たりの頭花の数や種子の数が多。種子はエゾタンポポの2倍以上できる。
- ・セイヨウタンポポの種子(瘦果)は軽く遠くに飛ぶことができる。
- ・セイヨウタンポポの種子は春から秋までのどの気温下でも発芽できる。
- ・セイヨウタンポポはロゼットの直径が2cmくらいでも花を咲かせることができる。

\* 参考資料：『雑草の自然史』・『花の自然史』・『植物生活史Ⅰ～Ⅱ』

(いずれも北海道大学図書刊行会発行)



エゾタンポポ

### (2) 種子散布の作戦は多様

植物は競争を避けたり、よりよい生育環境に子孫を残すために種子の散布には様々な作戦を持っています。その作戦にはどのようなものがあるでしょうか。

① 「莢（さや）」が弾けて種子が飛び出すもの

ハウセンカ・キツリフネなどのツリフネソウの仲間、ニセアカシアなどのマメ科、ゲンノショウコ、カタバミ、スマレなどはいずれも莢が乾燥してくると、莢の内側と外側の収縮のひずみから莢が弾けて種子が飛び出すものです。



キツリフネ

②落下のときに、くるくるまわりながら落ち広がるもの

- ・プロペラの形の種子：カエデのなかま
- ・細長いへらなどの形：ヤチダモ・アオダモ
- ・周りによじれた翼があるもの：ニワウルシ（シンジュ）・シナノキなど



シナノキ

③風により飛ばされ広がるもの

- ・綿毛をつけているもの：アキタブキ・タンポポ・ブタナ・ヒヨドリバナ・ガガイモ・ポプラなど
- ・種子が軽く、周りにうすい翼があるもの：ハルニレ・カツラ・シラカンバ・オオウバユリなど



イタヤカエデ

④鳥やけもの、虫が直接、果実や種を食べたり、食べるために運んだりして広がるもの

- ・リスやネズミ・鳥の食べ物、貯食により運ばれるもの：クリ・ミズナラ・キタコブシ・ホオノキ・ヤマブドウ・サクラ・ナナカマド・ズミ・サルナシ（コクワ）・ハマナス・ザゼンソウ・マツなど

⑤種子の周りのおいしいところ（エライオソーム）を食べるために運ぶもの

- ・エンレイソウ・エゾエンゴサク・カタクリ・スマレ・フタリシズカなど

⑥実や種子が鳥やけものにくっついて広がるもの（ひっつきむし）

- ・ノブキ・ミズヒキ・キンミズヒキ・ウマノミツバ・ヤブハギ・オオバコなど

会計からのお願いー忘れていませんか、会費の納入を!!ー

本協議会の活動は、会員の方の会費にて運営されています。今年度までの会費納入がお済みでない方は、会費の納入をお願いします。会費未納の方のみ振り込み用紙を同封しました。宛名タックシールに振り込み状況を記載しましたのでご覧ください。

- ・年度会費は1500円です（家族会員は2500円）。
- ・来年度から、年会費は500円値上げになります（個人会員は2000円、 家族会員は3000円）。来年度分までお支払いになられる方はお間違いなきようお願いします。

※退会の申し出あるまでは会員です。退会される方は、今年度までの会費を納入の上、事務局または会計担当までご連絡下さい。



郵便振替口座 02710-1-8768

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会会計 三澤 英一

# 救急救命講習会 2015

日 時:2015年1月11日(日)10:00~16:00(昼休み12:00~13:00)

会 場:札幌エルプラザ 研修室3[定員 24 名]

札幌市北区 8 条西 3 丁目 ☎011-723-1222

参加費:50 円(救急救命小冊子代)

受講料:午後の部受講の方は、今年度より札幌市にお住まいで、勤務されている方は無料ですが、それ以外の地域の方は、一人 1500 円の負担になります。[受講要項の改正により]

持ち物:三角巾(実習で使用します)、筆記用具、昼食など

## 1 講習内容

### ◇午前の部(10:00~12:00)

講師:日本赤十字社北海道支部

内容:ケガと止血・骨折の手当

・その他緊急時の対応等

### ◇午後の部(13:00~16:00)

講師:(財)札幌市防災協会

内容:ADE の使用法・心肺蘇生法等

○実習がありますので、当日は動きやすい服装でご参加ください。

## 2 申し込み方法

氏名、住所、連絡先、終了証番号、午前・午後・両方の別を記載の上、FAX・はがき又は、E-mail にて、事務局 池田まで、お申し込みください。

### ★申込締切★

2014年12月10日(水)必着!

### <申し込み・問合せ>

北海道自然観察協議会

事務局 池田政明

FAX:011-708-6313

E-mail:ecology@cocoa.ocn.ne.jp

〒001-0045

札幌市北区麻生町4丁目9-16

## 救急救命講習会 参加申込書

以下の通り、北海道自然観察協議会の救急救命講習会に申し込みます。

参加申し込み (いずれかに○)	2015年1月11日(日) 1. 午前の部(10:00~12:00) 2. 午後の部(13:00~16:00) 3. 午前・午後の両方
氏名	
住所	
連絡先	電話・FAX・E-mail (いずれかに○)
修了証番号	

札幌市消防署又は(財)札幌市防災協会の救急救命講習を以前受講した方で修了証をお持ちの方は、修了証の番号のご記入をお願いします。

注:氏名・住所・修了証番号は、(財)札幌市防災協会へ提出する名簿に記載します、ご了承ください。

なお、申込みは恐縮ですがコピーを取ってご利用ください。

私はいつもカメラやビデオを持って森を歩いています。四季を通して様々な情景が同じようであって同じでないところに、言いようのない魅力を感じています。

森の中で出会うものは、樹木や小動物それに草花等々、あちこちに素材が転がっています。

自然の中では毎回、想定外の事に出あうこともあります。例えば、池で子育てをしているカイツブリの横を、ヘビが泳いで横切ろうとして驚いた親が追い払う場面、2匹のネズミをくわえたエゾフクロウが飛来し、私の近くの枝に止る等々結構あるものです。私はこのようなチャンスを逸したくないので、いつでも撮れるよう望遠レンズ付きのカメラを持ち歩いています。

一方、草花も撮り始めると結構止みつきのようになります。とりわけ、植物は生育過程で変化していくので、その時々姿形に狙いを定めておくことで、より面白く撮ることができると思います。

また、植物のような静物を撮るときには、軽くて高性能なコンパクトカメラもなかなか重宝です。

私も最近体験した事ですが、アザミの開花シーンをタイムリーに撮ることができたことです。あと数日遅いとチャンスを逸していたかもしれません。

写真はそれなりに自己満足もありますが、自然の中での様々な動きをとらえるためには、まずは諦めない気持ちを持つことです。

私も様々な人たちが撮った素晴らしい写真を時折見ながら、あれやこれやと思いを巡らしています。

写真の経験豊富な方は沢山いますが、とりわけビギナーの方も撮れば撮るほど上達していくと思いますので、まずは記録から気軽に始めてみてはいかがでしょうか。ゆくゆくは自分のライフワークとなるかも知れません。



給餌中のクマガラ親子(6月)



子育てに忙しいカワセミ(6月)



一列に並んで移動するマガモの親子(7月)



給餌中のムクドリ(6月)



仲がいいエゾフクロウのカップル(11月)



背にヒナを乗せ育児をするカイツブリの親子(6月)

オニグルミの実をくわえハイ、ポーズするエゾリス(9月)→



## 自然観察協議会指導員フォローアップ研修会 開催のご案内

北海道自然観察協議会では、指導員が開催する自然観察会のさらなるレベルアップと会活動の充実強化を図るため2014年度フォローアップ研修会を下記により開催します。指導員のみなさん、ふるってご参加願います。

記



### 1 開催日時

平成26年11月30日(日) 13:15~16:00

### 2 開催場所

かでの2・7 1010会議室(札幌市中央区北2条西7丁目 ☎011-204-5100)

### 3 参加費

500円

### 4 研修内容

#### 1) 蘭越の自然を撮ってCDに(13.15~14.05)

講師 北海道自然観察協議会 大表 章二元研修部長

講師が撮影した様々なジャンルの写真を苦労話を交えながら放映をいたします。

#### 2) 自己研修の仕方~私の自然観察会のやり方~(14.15~15.05)

講師 北海道自然観察協議会 谷口 勇五郎指導員

ベテラン指導員谷口指導員ならではの観察会の仕方、留意点を指南します。

#### 3) 経験交流「魅力的な自然観察会を行うには」(15.10~16.00)

司会 北海道自然観察協議会 横山 武彦会長

参加者を交えて、経験交流も含めて「楽しい、誰にでもできる観察会の開催の仕方」等について話し合います。

## 忘年会のご案内

今年も上記フォローアップ研修会終了後、恒例により下記により忘年会を開催しますので、皆様のご参加をお待ちしています。

◆日時 2014年11月30日 17:00~19:00

◆場所 大庄水産札幌店 2F(中央区北4西4-1 ☎011-231-0502) デパート大丸南側

◆参加費 3500円

◆申し込み 参加希望者は、事務局の池田(☎011-708-6313)まで連絡ください

# 面白く楽しい自然ガイド

## (1)

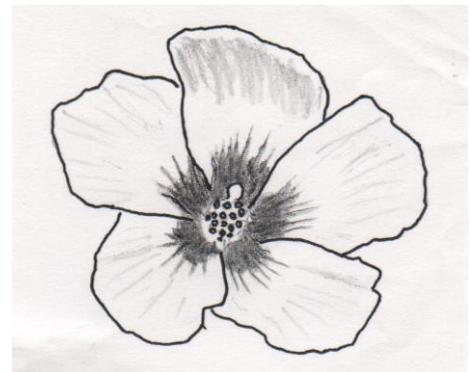
### ムラサキヤシオとムクゲ

苫小牧市 谷口 勇五郎

10年以上、自然観察会のガイドをしています。園芸種についてはほとんど取り扱ったことがありません。数が多すぎ、手掛けると際限がないし、自然とも離れていると思ったからです。庭の花の名もほとんど知りません。またガイドをしている場所は、森林、草原、湖畔や割合自然に近い公園です。ところが今年、文化公園(美術博物館の前)で植物観察会を行うことになりました。多くは植栽のもので、園芸種も少なくありません。それらの植栽リストは昨年いただいております。

5月中旬ころ、下見のため文化公園に出かけたとき、カメラを持った人と立ち話をしました。「鳥を撮っているが、余りいないわ」、「ここは植えた木や園芸種が多く、しかも整備がよく、自然からは離れているからね」、高台で「これがムラサキヤシオですよ」、「エゾムラサキツツジじゃないんですか」、「多分、ムラサキヤシオの方だと思いますけど」と弱々しく返しました。私もエゾムラサキツツジのように感じたものの、リストをよく見ないで、格好よい名前のムラサキヤシオ(紫八染：色の美しさからツツジの女王と言われる)を沢山、植栽していると思い込んでいたのです。花はほとんど散りかけていたことはさておき、何とも情けないことに、どこにでもあるエゾムラサキツツジを本当はよく知らなかったのです。

次の日の朝、近くのコミセンの辺りを散歩していると、民家の裏庭に紅紫色のツツジが咲いていました。エゾムラサキツツジより紅色が濃く、これが初めて見るムラサキヤシオの花と思いました。葉を1枚もらい調べると、葉は小さいものの、細鋸歯の先や裏の葉脈上に1.5mmの白い毛があります。葉の形もムラサキヤシオのものでした。今年の紋別岳の観察会は例年より1週間も遅く、5月末に行いました。中腹より上の方々に、ムラサキヤシオが咲いていることを初めて知りました。エゾムラサキツツジ(北海道で一番早く咲くツツジ)の自生は、日高から東と北見地方に多く、この辺には自生しないそうです。



8月31日の植物観察会の下見では、ムクゲ(アオイ科フヨウ属)が目立って咲いています。民家の庭にもよく見られます。今回初めて取り上げてみようと思ってみました。花弁は5枚、下部で合生し、花の色は紅、白、紫、桃色。一重のものは朝開き、夜しぼみ2~3日咲き。八重のものは2週間ほど咲いているそうです。中国原産で平安時代に渡来、韓国の国花という。

日本では法定による国花はなく、桜や皇室の菊あたりが国花として扱われているようです。ちなみに北海道の花はハマナスですね。同じフヨウ属にフヨウ(芙蓉)があり、TV番組に「芙蓉の人」(明治時代、初めて冬に富士山頂で気象観測する夫を支えた女性)がありました。

花の径は10~15cmと大ぶりで、3日ほど咲き、しとやかな女性に例えられる花だそうです。北海道では冬に地上部がほとんど枯れ、多年生草状になるといいます。その後、市内の数カ所で見かけました。親指くらいの太さの茎が10数本株立ち、人の背丈ほどありました。

ハイビスカスも同じフヨウ属で、熱帯、亜熱帯のフヨウ属から作られた園芸品種で、寒さに弱く、マレーシアの国花、ハワイ州の州花だそうです。

今回、園芸品種に初めて挑戦し、1つの生物から関係するものにつながり、学ぶことができました。とくに、こだわりや思い込みは、つくづく悪い癖と思いました。

## 変りゆく川

札幌市 村元 健治

私は、札幌と小樽のちょうど中間地帯の手稲区星置というところに住んで30年経つ。手稲区のシンボルの手稲山をはじめ、海(小樽ドリームビーチ)あり、川ありということで、自然がかなり残っている地域だ。

中でも、地区の西はずれに流れている星置川は近年、市内でもサケが遡る貴重な川として市民からも注目されている。サケが遡るといことは、それだけまだ川がきれいだということの意味している。事実、水は透明で、清流でもある。地区内の流れは、中流域で幅は約3m、深さは20~30cmで、まさに小川というイメージだ。それゆえ、近年は我が自然観察協議会をはじめ各種自然保護団体などが、この川で子供たちを集めて「せせらぎウォッチング」などしている。

ところが、長年、この川を眺めてきた筆者にすれば、自然豊かな小川と思えない。一見、清らかな流れのため、自然あふれる感じがするが、そうでもない。水質並びに水の透明度などは、あまり変わらないと思われるが、問題は川底が、粘土質の細かい砂に覆われていることだ。流れもあまり早くないため、それらが川底に沈着しており、その上を歩くとヌルっとして気持ち悪い。それとそうした細砂ともいべきものが川底を覆っているため、川底は変化なく平盤で、砂利、玉石などもツルツルしていない。

これら細砂に覆われるようになった要因は、近年、上流で盛んに行われた一連の砂防ダムの建設が影響していると思われる。

いずれにしてもこうした細砂に覆われていない砂利なら、水で磨き上げられてピカピカ輝いている。少なくとも30年前は、そうした状態だったので、春になるとヤツメウナギをはじめ、アカハラなどが遡上してきていた。またモズクガ二もたくさん生息していた。

ところが、今はこれらの水中生物は、ほとんど見かけなくなった。

こうした生物が減った理由としては、川をめぐる環境の激変も大いに影響していたと思われる。まず護岸工事が行われるとともに、川の直線化も行われた。これだけでも水中生物に及ぼす影響は大きいと思われるが、さらにダメージを与えているのは、河畔林の定期的伐採だ。これは土木現業所で行っているものだが、そうでなくとも乏しい河畔林(柳等)を洪水防止という名目で定期的に、伐採を行う。折角、水面を覆って水生生物が棲みやすい環境になったと思ったら、たちまち容赦なく伐採してしまう。そうなると川は太陽に全面的に照らされ、川の水温も上昇するのみならず、餌になる虫類も落下しなくなるとともに、隠れ家もなくなってしまふ。いくら洪水防止のためといえども、もう



河畔林が間引き・抜採された星置川

少し水中生物のことも配慮してもらいたいものだ。

近年、サケがさらに上流に遡れるように、一部堰堤の除去が行われたが、そうした自然にやさしい、あるいは戻すような取り組みが、もっとあってよいと思っている。

## B&B 開催

千歳市 小松 典子

今春から札幌転勤に伴い、千歳から通勤する日々です。札幌は千歳に比べ自然が少ないと寂しく感じていましたが、それでも通勤途中でキレンジャクやチゴハヤブサを見かけたりしました。

職場の人とも打ち解け始めた 5 月、「最近鳥の声がよく聞こえるけれど、何でしょうね？」との会話に「あれはヒバリですよ。」と口を挟んだのをきっかけに、野鳥に興味を持つ人が出始め、皆で野鳥観察に行こうと話が持ち上がりました。職場の懇親も兼ねて、千歳で B&B (バードウォッチング&バーベキュー) を開催することになりました。

当日はカラ類を間近で見、美しいキビタキの羽に感動し、メジロのリングに歓声が上がりました。また、アカゲラとオオアカゲラが 1 カ所で見られたため、その違いがよくわかりました。

バードウォッチング初心者の方ばかりで、なかなか双眼鏡で鳥を見つけられず、四苦八苦していましたが、晴天の下、さわやかな緑の中で、自然を満喫できた前半の B (バードウォッチング) でした。もちろんその後、後半の B (バーベキュー) で、更に盛り上がったのは言うまでもありません。そろそろ冬鳥の季節ですので、次回は B&N (鍋) などの企画を考え中です。

## ウォッチングレポート



### 旭川市「旭山観察会」(2014/9/23)

晴天のもと、さわやかな秋のおとづれを感じながらの旭山観察会。参加者の申込みは、最初少なかったが、当日参加受付の方も多く計 24 名(うち指導員 7 名)の参加であった。

ドングリがたくさん落ちている道を踏んで歩く。秋と言えば実、黒い実のルイヨウショウマ、赤い実のコマユミ、ツルリンドウ、ツリバナ、アズキナシ。キタコブシやハクウンボクの実。春からみれば少なくなった鳥の声だが、ゴジュウカラ、シジュウカラ、アカゲラの声。動物園の山ということで、動物園からのタンチョ

ウ等の声。他に、タヌキの「ためふん」、虫こぶ、キノコ。サワシバやアズキナシの葉が平行脈であることの話。花がめっきり少ない中、アキノキリンソウが元気に咲いていた。下見で味わったコクワの実は、本番では遭遇しないで終わったのが残念であった。

参加者も秋の楽しいひとときを過ごせて、好評に終わった。

(原部 剛)

### 札幌市「屯田防風保健保安林 夏の観察会」(2014/7/20)

本日は、清々しい天候の中でテーマは、『神秘的甘い匂いがただようオオウバユリの開花を観察しよう』に一般参加者 10 名、指導員 3 名での観察会となりました。開花の時期は過ぎておりましたが、管理者の許可を得て、保護区域外のおオウバユリの根株をほりおこし、普

段見ることのない地下の部分について詳しく観察をしました。オオウバユリ(ユリ科)は、典型的な 1 回繁殖型多年草で、開花の段階では、母鱗茎はすでに開花のためにエネルギーを消耗し尽くしてその原基はありませんでした。

開花には種子からの繁殖では 6~8 年、娘鱗

茎の栄養繁殖では、2~4年ほどかかります。オオウバユリの生活史についての一部ですが、体験により参加者の方々と共に感動すること

ができました。

(池田 政明)

## 札幌市「屯田防風林の秋(紅葉と木の実)を観よう」(2014/10/12)

昨日の悪天候がうそのように、朝から快晴に。少し肌寒いが、観察会としては恵まれた方である。

屯田防風林も植生が年々豊かになっているし、再発見もある。その中には、近隣で植林したものも含まれている。

シンジュ、ゴボウ、ミズソバ、オオハナウド、イヌタデ、クワ(大抵♂株)、ツルマサキ、キクイモ、オニシモツケ、オオウバユリなどが自然増。テンジクアオイ、ライラック、エゾエノキ

の植林もある。我々が名付けた「屯田開拓の木」(シナ、新琴似連町に宝木で登録)も健在。シンジュの房状の種子群、ナナカマドの散房花序の実、オオハナウドの枯れた散形花序、オオウバユリのサヤ(MAXで22個)が特に目立っていた。

雪虫がヤチダモに移動し始めて、飛ぶ様を時々見かける。

面白い観察会と思うが、連休の割には人手が少なかった。後は、もつと観察会の宣伝を!と思った。

(澤田 八郎)



## 参加者の声



### 石狩浜の会に参加して(2014/9/6)

札幌市 山室 ゆかり

ある雑誌からこの会を知り、大好きな石狩浜の会に参加することができました。

当日は良い天気。リーダーに草花の名前を教えてくださいてもちっとも覚えられない自分に腹を立てていました。それでもハマエンドウやナガボノシロワレモコウ、オグルマ等を知り、思わず「可愛い!」と叫んだり「これは、オギとヨシ」との説明に「ススキじゃないの?」と声を出しそうになったり……。一つ一つが目

新しく、実に楽しく活動できました。海辺では、チュウシャクシギを発見!足の長さや嘴に見とれたり、チョコチョコ歩くトウネンの愛らしさに時間を忘れてたりと感動しっぱなしでした。

魅力いっぱいの石狩浜を満喫し、たくさんの事を学んだ一日。会の皆様とご一緒させていただいたからこそです。

これを機に積極的に観察会に参加していけたらと願っています。

### 旭川市「旭山観察会」(2014/9/23)

旭川市 松本 和子

今日は快晴で暖かく、良い天気になりました。お地蔵様を巡るルートを歩き、色々と教えて頂きました。

大木にショッキングピンクの大きな実、足元

に草丈 10 cm程についた赤い実、その他どれも種がギッシリ詰まっていました。

草花を観察するのは五感を使いますね。発見して、触って匂いを嗅いで… 子供の頃の遊び

を思い出しました。森林浴して、身も心も清々しくなりました。

ありがとうございました。



# ウォッチングプラン

開催予定日	テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
未定 1月中旬	第14回北大構内冬休雪氷観察「親子で楽しむ雪の観察会」	札幌市北区 北海道大学 キャンパス内	【札幌市教育委員会後援】 北海道大学 クラーク会館前 13:00 集合～ 15:00 解散 (北大構内は駐車禁止) ※小4以下は保護者同伴。大人のみの参加も可能 雪の入らない靴(スパッツ付など)・替え手袋・帽子 雪の結晶の写真撮影を希望する人はカメラ	JR札幌駅北口から徒歩5分 地下鉄南北線さっぽろ駅、北12条駅から徒歩10分	須田 節 011-752-7217
1/11(日)	「北大研究林」観察会 野鳥・冬芽・動物の足跡の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00 集合～ 12:00 解散予定	JR苫小牧駅前バスターミナル 道南バス9:12発「01 苫小牧営業所行き」乗車、「美園4丁目」下車徒歩30分 無料駐車場有	谷口勇五郎 0144-73-8912
1/24(土)	「街中の自然・屯田防風林」観察会 ④ 冬編 冬芽や、創成川の水鳥を観察しよう!	札幌市北区 屯田防風保健保安林～創成川	下水道科学館前駐車場 10:00 集合～ 12:00 解散 防寒服、あれば双眼鏡、図鑑など	地下鉄南北線麻布駅出口2番から徒歩15分 中央バス札幌ターミナル発 下水道科学館前下車徒歩5分 JR学園都市線新琴似駅下車徒歩15分	池田政明 011-708-6313
2/15(日)	「冬の円山公園」観察会 冬に耐える植物	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 10:00 集合～ 12:00 解散	地下鉄東西線円山公園駅下車	山形誠一 011-551-5481
3/22(日)	「旭山」観察会 早春の旭山をスノーシューで歩こう	旭川市 旭山	旭山動物園正門手前で、右側の駐車場に集合 9:00 集合～ 12:00 頃解散 小雨決行 親子参加も歓迎 スノーシューない方は、お貸しします。	旭川駅前 西武デパート裏の5番乗り場 (旭川電気軌道) 40番、46番で所要時間30～40分 7時台発車のバスでおいで下さい。 車の場合、旭川駅から4条通へ、19丁目交差点を左折 10条通りへ行き、直進。	原部 剛 080-6092-4347 FAX 0166-37-2462



☆フォローアップ研修会、今年も開催します。ベテランの指導員の報告となりますので、会員皆様、是非、ご参加ください。忘年会も参加願います。気軽に楽しく懇親ができます。  
☆会計からのお願いもありましたが、会費未納の方、納入の程、改めてよろしくお願い申し上げます。

☆平成 27 年度の NACS-J 指導員講習会開催を北海道・旭川市で、開催することを決定し、日本自然保護協会に 12 月中に、申し込みすることを理事会で決定しました。  
日程、詳しい内容等について決まりましたら、改めてご案内いたします。

☆今回の会報では「カメラルポ」と称して本会報の目次下のところで、毎号素晴らしい写真を提供されている森 繁寿氏の写真を掲載させていただきました。ご当人が写真を撮るときの留意点なども書き添えていただきました。どの写真も生き生きとして、大変、微笑ましいものばかりで、さすがという感じがします。107 号でも紹介しましたが、森さんはエゾフクロウの写真を収めた『エゾフクロウの魅力～野幌の森での出逢い・発見・感動～』（頒価 3000 円）を出版しています。ご希望の方は、直接森さん(☎・fax 011-385-6571)まで連絡願います。

(む)

## 【連絡先】

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>  
会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768  
会 計 三澤 英一 北広島市松葉町 5 丁目 9-16  
会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 三澤 英一  
観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461  
観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台 3-13-5  
Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail [streamy@estate.ocn.ne.jp](mailto:streamy@estate.ocn.ne.jp)  
観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山 1 丁目 12-14  
Tel/Fax 011-551-5481 E-mail [seichi.y@jcom.home.ne.jp](mailto:seichi.y@jcom.home.ne.jp)  
退会、住所変更の連絡他は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町 4 丁目 9-16  
Tel/Fax 011-708-6313 E-mail [ecology@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:ecology@cocoa.ocn.ne.jp)  
事故発生等緊急時はアスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 Tel 011-873-2655  
  
投稿や原稿は 編 集 部 村元 健治 札幌市手稲区星置 2-8-7-30  
Tel 011-694-5907 E-mail [cin55400@rio.odn.ne.jp](mailto:cin55400@rio.odn.ne.jp)

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2014 年 11 月 15 日 / 第 112 号 年 4 回発行  
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協議会  
編集 北海道自然観察協議会編集部